

校友會誌

第一號



大邱師範學校校友會

迨スニ至ル今開校ノ式典ヲ舉ゲ校運ノ隆盛ヲ將來ニ期スル所アリト雖局ニ當ル者其ノ任ノ重大ナルヲ思ヒ一層意ヲ此ニ致サザルベカラズ

冀クハ職員各位克ク其ノ使命ノ重キヲ顧ミ協力事ニ處シ熱誠任ニ膺リ生徒諸子亦德ヲ膺キ智ヲ啓キ志操ヲ鞏ウシ品性ヲ高ノ以テ本校創設ノ趣旨ニ副ハンコトヲ

昭和四年六月十五日

朝鮮總督 山 梨 半 造

滿洲視察談

特別會員 播 本 常 次

世間の人は滿洲は日本の生命線だと云ふが何故だらう、云ふ迄もなく日本は人口過剰で天産資源が少ないそれで國民が生活を維持して行くためには其の經濟範圍を海外に求めねばならぬ、然るに日本人の海外發展は白人達の偏見によつて八方塞りと云ふ實情であるから如何しても滿洲に其の無盡の資源を開發して人口の吐き口を求める外はない、だからこそ、日本は日清日露の兩役に見多の犠牲を忍んだのだ日露戦争では十萬の死傷者と二十億の戦費とを犠牲にした、而して遂にロシアの野心を打ち倒した若し之れが出来なかつたらば疑もなく滿洲や朝鮮はロシアのものとなつてをる又支那本部でも恐らく歐米列強のために目茶目茶になつてをることだらう、然るに日本が勝つたロシアの侵略の歩みは見事に挫かれた、朝鮮も滿洲も支那本部も其の治安平和の任務は日本の双肩に掛つて來た、日本は實に此の重任を盡して今日に及んでをるものである。

日本が滿洲の治安維持の重任を擔ぎ込んでから早や四半世紀、而して此の間に滿洲の歴史は世界史に比類を見得ない位、萬事に發展の記録を残してをる、昔寒村だった大連は一切の文明的施設を具備した文化都市となつて旅順は朝日の匂ふ櫻の名所となつてをる、乃木將軍の詩で名高い金州は林檎の名産地となつてをる關東州は支那で一番安全な地帯となつてではないか、今や滿洲は全体から云つて舊全支那で最も繁榮な場所となつてをる、之れ皆日本が其の開拓に非常な努力を拂つたからである、試に現在日本が投下してをる資

萬葉各々思ひあり
東の空にかゞやける
星また星に聲も無し

三、輝け星よ清らかに

神秘の幕の開くまで
邪惡の下界が来るまで
輝け星よ清らかに

希望の朝

二年二組 横 聖 絳

あゝ日は昇る
東雲の空が匂やかに彩られ
草葉の露が白銀の玉と輝き
光明燦として大天地に照映する
あゝ日は昇る

葉蔭の蝸牛も角出した
牧場の牛もいななき出した
日の光はキラ／＼と瑞々しい木々の梢にさし入り
雀がちゅん／＼なきだした

あゝ日は昇る

すが／＼しい朝風が心地よく流れ出し
葉末の露が一斉に讃美の輝きをあげる
一人丘上に屹立して
双手を高く天半にかゝげて
大宇宙の靈氣を呼吸する爽さ

あゝ日は昇る

天地の活動がやうやく起つて来た
若者の血はわきたち
胸はよくらみ
筋肉は隆々として勇氣にみつ

其の目ざす所！希望の國土！理想のあこがれ！

童謡

春雨

二年二組 朴 正 照

一、雨が降ります雨が降る
川邊の柳の芽をぬらし
お池の水に輪をかいて
し／＼／＼／＼としめやかに。

二、雨が降ります雨が降る
村の畑に雨が降る
若い小麦のやせた葉が
見る／＼中にぐん／＼伸びる。

おくれ時計

三年一組 朴 己 龍

古里の村の真中に

汽 車

三年一組 山下 辰雄

一、せーご高い
汽笛が聞えた
前方を見るぞ

童謡

春 雨

二年二組 朴 正 熙

一、雨が降ります雨が降る
川邊の柳の芽をぬらし
お池の水に輪をかいて
しとくくくとしめやかに。

二、雨が降ります雨が降る
村の畑に雨が降る
若い小麥のやせた葉が
見るく中にぐんぐ伸びる。

おくれ時計



部報

第三回陸上競技大會

「大會の順序」

- 一、開會 午前八時
- 二、開會 開會の辞、体育運動歌合唱
- 三、合同体操
- 四、運動開始

A 競技プログラム

順序	競技種目	順序	競技種目
1	百メートル対決	12	學徒對決四百米決
2	五十メートル	13	八百米
3	市立陸上紅白	14	八百米
4	市立陸上紅白	15	八百米
5	市立陸上紅白	16	八百米
6	市立陸上紅白	17	八百米
7	市立陸上紅白	18	八百米
8	市立陸上紅白	19	八百米
9	市立陸上紅白	20	八百米
10	市立陸上紅白	21	八百米
11	市立陸上紅白		

第三回陸上競技大會の感想

晴れた五月の夜、市況は二十一日は我々に取って思ひ前多き日であった。

本校陸上競技会が先づてに延期でた日は若人を訪ねた。

午前八時のサイレンと共にグラウンドに集りたる五百餘の健勇者の意気は底に衝天の勢を帯びて、爽やかな顔付に既に今日の一日を豫想しきつてゐた。

やがて會長より開會を宣せられ、一同は最前線の陣に陣の今日を宣言してゐた。開會たるクワパの音と共に、我々も皆々体育運動歌の合唱が終ると、次いで合同体操が始り、果敢の士氣に會し元氣にみちた一場先放は押しよせると觀衆の喜びと満足とを與へるに十分であつた。

合同の体操の後は、一歩の百メートルから競技は切つて進まれた。唯一人負けのみの短距離で、我々も皆々元氣に立つて走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出ると、我々も皆々走り出した。

お！實に開會のプログラムであつた。職員、生徒、觀衆の熱心な応援は、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。

「白組」がなれば、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。

「白組」がなれば、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。

「白組」がなれば、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。

「白組」がなれば、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。元氣の勢に、我々も皆々走り出した。

記録 (トラックの部)

- 一、百メートル 一、林二君 (二ノ四) 十二秒八
- 二、二百メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 三、四百メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 四、八百メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 五、一千六百メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 六、三千二百メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 七、五千メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 八、八千メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 九、一万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十、二万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十一、三万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十二、四万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十三、五万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十四、六万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十五、七万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十六、八万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十七、九万メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二
- 十八、十萬メートル 一、林二君 (二ノ四) 十三秒二

昭和八年五月二十五日印刷
昭和八年六月一日發行

—(非賣品)—

慶尙北道大邱府鳳山町一番地

編輯
行人兼

北方榮之助

大邱府鳳山町七ノ一

印刷人

西田德太郎

大邱府鳳山町七ノ一

印刷所

西田商店印刷所

發行所

大邱師範學校